

長崎県子どもの生活に関する実態調査の概要

1. 調査の趣旨と目的

県内の子どもの生活状況と現行の支援制度の課題等を把握し、より効果的に子どもの貧困対策等を推進するため、小値賀町を除く県内20市町で「長崎県子どもの生活に関する実態調査」を実施しました。今回の調査は、子どもの生活状況や意識などを把握するとともに、親の所得や世帯状況などが、子どもの生活状況等にどう影響するかなど、親子間の関連について調査したものです。

2. アンケート調査の概要

(1) 調査対象

小賀値町を除く県内20市町から抽出した小中学校に通う小学5年生及び中学2年生の子どもとその保護者

(2) 調査期間

平成30年11月22日～12月5日（14日間）

(3) 配布数と有効回収数

対 象	配布数	有効回収数	回収率
小学5年生の保護者	4,665	<u>4,496</u>	96.4%
小学5年生	4,665	4,504	96.5%
中学2年生の保護者	4,664	<u>4,443</u>	95.3%
中学2年生	4,664	4,447	95.3%
合 計	18,658	17,890	95.9%

(4) 所得階層による世帯数と割合

世帯の呼称（等価可処分所得の範囲）	世帯数	割合
世帯区分1（97.2万円以上）（Ⅰ層）	6,802	88.8%
世帯区分2（97.2万円未満）（Ⅱ層）	860	<u>11.2%</u>
小 計	7,662	100.0%
不明	1,277	—
合 計	<u>8,939</u>	—

【所得階層による世帯の定義について】

- ① 世帯の人数と世帯全員の収入を合わせた手取額（収入から税や保険料を支払った後の額／2017年の1年間）に関する設問により、当該世帯の等価可処分所得（世帯年収を世帯人員の平方根で除した額）を算定します。
- ② 上記①で算定した等価可処分所得が、等価可処分所得の中央値の半分の値である97.2万円以上となる世帯の呼称を「世帯区分1（Ⅰ層）」とします。等価可処分所得が97.2万円未満となる世帯の呼称を「世帯区分2（Ⅱ層）」とします。
- ③ なお、ここで求めた所得階層区分の割合と、厚生労働省発表の子どもの貧困率とは、調査対象、世帯所得の把握方法等が異なるため、正確に比較できません。（平成28年調査による国の貧困線122万円、貧困率13.9%）
- ④ 「不明」は分析に必要な該当設問に無回答の世帯であり、割合は無回答を除いて算出しています。

(5) 家族形態による世帯数と割合

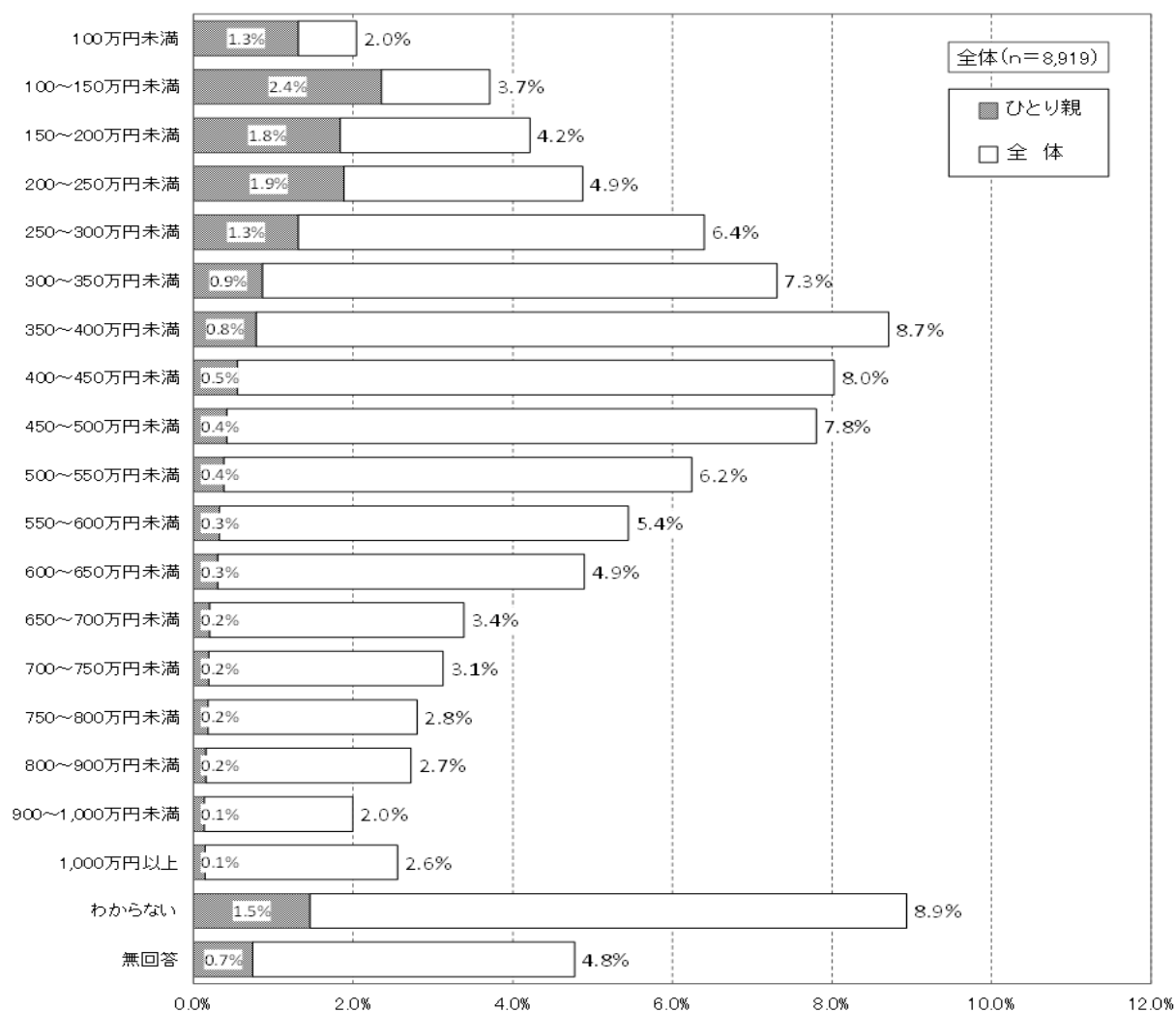
世帯の呼称	世帯数	割合
ひとり親世帯 (A層)	1,385	15.8%
非ひとり親世帯 (B層)	7,398	84.2%
小計	8,783	100.0%
不明	156	—
合計	<u>8,939</u>	—

【家族形態による世帯の定義について】

- ① 世帯人員の設問により、子どもと同居している親が母親または父親の一方だけと判断できる世帯の呼称を「ひとり親世帯(A層)」とします。
- ② 同様の判断により、子どもと両親が同居している世帯の呼称を「非ひとり親世帯(B層)」とします。
- ③ 「不明」は分析に必要な該当設問に無回答の世帯であり、割合は無回答を除いて算出しています。

(6) 世帯収入

本調査における世帯年収（2017年の1年間の世帯全員の手取り収入の合計）は平均で419.9万円であり、その分布は次のとおりです。



3. アンケート調査の結果から見える主な傾向

今回の調査結果では、保護者の収入や家族形態が、子どもの生活環境や教育環境、社会環境、さらに心身に対して影響を与えていることが明らかとなり、その主な傾向は以下のとおりです。

(※) 主な傾向の回答割合 (%) は各設問において小5と中2のうち主に高い数値を記載しています。

(1) 経済状況

●本県の所得階層区分を分ける値(貧困線) 97.2万円(貧困線を下回る世帯の割合: 11.2%)

●所得階層や家族形態により保護者の就業形態や学歴に差が見られる

(父の就業形態: ①正規職員等②非正規職員等)

I層①76.6%②2.0%、II層①26.5%②5.9%、A層①35.3%②1.8%、B層①77.6%②2.5%(中2)

(母の就業形態: ①正規職員等②非正規職員等)

I層①36.8%②44.3%、II層①24.7%②51.3%、A層①44.4%②34.7%、B層①32.7%②46.4%(中2)

(父の学歴: ①中学、高校②専門学校、短期大学、大学、大学院)

I層①55.7%②38.6%、II層①50.3%②14.7%、A層①40.3%②20.0%、B層①58.7%②38.7%(中2)

(母の学歴: ①中学、高校②専門学校、短期大学、大学、大学院)

I層①46.7%②50.7%、II層①69.2%②27.5%、A層①53.2%②37.7%、B層①49.7%②48.8%(中2)

●所得階層や家族形態により家計の状況に差が見られる

・現在の暮らしについて、「大変苦しい」及び「やや苦しい」と感じている割合は、全体では、44.2%であり、II層とA層では、割合に差が生じている。

I層 41.4%、II層 77.1%、A層 60.4%、B層 41.0% (中2)

・通常の家計の状況について、「赤字で借金をして生活している」及び「赤字で貯蓄を取り崩している」割合は、全体では、32.4%であり、II層とA層では、割合に差が生じている。

I層 29.6%、II層 63.2%、A層 44.2%、B層 30.6% (小5)

●所得階層や家族形態により「経済的理由による衣食住及び医療に影響が出た経験」がある割合に差が見られる(直近1年間における経験)

・「必要な食料品が買えなかった」経験がある割合について、全体では3.7%であり、II層A層では、割合に差が生じている。

I層 2.8%、II層 12.6%、A層 6.4%、B層 3.0% (中2)

・「電気・ガス・水道が止まった」経験がある割合について、全体では2.2%であり、II層A層では、割合に差が生じている。

I層 1.5%、II層 10.0%、A層 4.6%、B層 1.9% (小5)

・「医療機関を受診できなかった」経験がある割合について、全体では4.5%であり、II層A層では、割合に差が生じている。

I層 3.5%、II層 13.3%、A層 8.1%、B層 3.9% (小5)

●所得階層や家族形態により「子どもが希望したのに経済的理由によりできなかった経験」がある割合に差が見られる（直近1年間における経験）

- ・「本や絵本が買えなかった」経験がある割合について、全体では5.0%であり、Ⅱ層A層では、割合に差が生じている。
I層 4.1%、Ⅱ層 13.1%、A層 8.5%、B層 4.4%（小5）
- ・「お小遣いを渡せなかった」経験がある割合について、全体では13.9%であり、Ⅱ層A層では、割合に差が生じている。
I層 12.1%、Ⅱ層 36.6%、A層 22.7%、B層 11.9%（中2）
- ・「習い事に通わせられなかった」経験がある割合について、全体では10.4%であり、Ⅱ層A層では、割合に差が生じている。
I層 9.2%、Ⅱ層 24.3%、A層 15.3%、B層 9.3%（中2）

●支援制度を知らない世帯が一定数存在する

- ・「就学援助費」について、全体では、「利用している」「知っている」の割合が72.1%、無回答が17.6%、「知らない」の割合が10.3%であり、Ⅱ層A層に知らない世帯が一定数存在している。
I層 10.6%、Ⅱ層 8.8%、A層 6.5%、B層 11.0%（小5）
- ・「児童扶養手当」について、全体では、「利用している」「知っている」の割合が67.8%、無回答が21.6%、「知らない」の割合が10.6%であり、A層に知らない世帯が一定数存在している。
A層 3.5%（中2）
- ・「生活保護」について、全体では、「利用している」「知っている」の割合が74.6%、無回答が22.5%、「知らない」の割合が2.9%であり、Ⅱ層A層で知らない世帯が一定数存在している。
I層 2.5%、Ⅱ層 5.2%、A層 3.1%、B層 2.8%（小5）
- ・「行政や社会福祉協議会からの貸付金」について、全体では、「利用している」「知っている」の割合が37.5%、無回答が22.4%、「知らない」の割合が40.2%であり、Ⅱ層A層で知らない世帯が一定数存在している。
I層 42.1%、Ⅱ層 33.7%、A層 28.5%、B層 42.4%（小5）
- ・「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー」について、全体では、「利用している」「知っている」の割合が57.8%、無回答が21.7%、「知らない」の割合が20.5%であり、Ⅱ層A層で知らない世帯が一定数存在している。
I層 20.3%、Ⅱ層 24.5%、A層 22.8%、B層 20.2%（小5）
- ・「高等学校等就学支援金」について、全体では、「利用している」「知っている」の割合が49.1%、無回答が20.4%、「知らない」の割合が30.5%であり、Ⅱ層A層で知らない世帯が一定数存在している。
I層 31.2%、Ⅱ層 28.5%、A層 27.8%、B層 31.1%（小5）

(2) 生活環境

●所得階層や家族形態により規則的な生活習慣に差が見られる

- 子どもだけで夜間に留守番をさせていない割合は、全体で 88.6% であり、Ⅱ層 A 層では、子どもだけで夜間に留守番をさせる割合に差が生じている。

(夜間に留守番させる) I 層 10.0%、Ⅱ層 13.1%、A 層 15.6%、B 層 9.1% (小 5)

- 平日の起床時刻について、「ほぼ」「どちらかといえば同じ時刻に起きている」割合は、全体で 89.2% であり、Ⅱ層 A 層では、割合に差が生じている。

(ほぼ、どちらかといえば同じ時刻に起きる) I 層 90.1%、Ⅱ層 86.0%、A 層 86.7%、B 層 90.0% (中 2)

- 朝食を食べる頻度について、「ほぼ毎日」の割合は、全体で 87% であり、Ⅱ層 A 層では、割合に差が生じている。

(ほぼ毎日朝食を食べる) I 層 88.4%、Ⅱ層 80.5%、A 層 82.8%、B 層 88.1% (中 2)

- 毎日の歯磨きの頻度について、「毎食後 (3 回以上)」の割合は、全体で 64.7% であり、Ⅱ層 A 層では、割合に差が生じている。

(歯磨きを毎食後する) I 層 65.8%、Ⅱ層 55.9%、A 層 58.7%、B 層 66.2% (中 2)

●規則的な生活習慣が身につけていないことにより子どもの健康や学力に差が見られる

- 現在の子どもの健康状況について、「健康である」の割合は、全体で 87% であり、Ⅱ層 A 層では、割合に差が生じている。

(健康である) I 層 87.5%、Ⅱ層 82.7%、A 層 82.6%、B 層 87.8% (小 5)

- むし歯の状況について、「ある (治療していない)」の割合は、全体で 8.4% であり、Ⅱ層では、割合に差が生じている。

(虫歯がある (治療していない)) I 層 7.5%、Ⅱ層 12.6%、A 層 9.8%、B 層 8.1% (中 2)

- 全体では、朝食を食べる頻度と子どもの健康状態に関するクロス集計において、「毎日食べる子ども」は「ほとんど食べない子ども」とくらべ「病気がある、体調が悪い」割合が低い傾向が見られる。

(病気がある、体調が悪い) 毎日食べる 8.2%、ほとんど食べない 18.6% (中 2)

- 全体では、平日の起床時刻と子どもの学力に関するクロス集計において、「ほぼ同じ時刻に起きる子ども」は「毎日異なる時刻に起きる子ども」とくらべ「勉強がわかる」割合が高い傾向が見られる。

(勉強がわかる) ほぼ同じ時刻に起きる 80.6%、毎日異なる時刻に起きる 53.5% (中 2)

- 全体では、朝食を取る頻度と子どもの学力に関するクロス集計において、「毎日食べる子ども」は「ほとんど食べない子ども」とくらべ「勉強がわかる」割合が高い傾向が見られる。

(勉強がわかる) 毎日食べる 78.5%、ほとんど食べない 54.8% (中 2)

(3) 教育環境

●家庭環境により子どもが希望する学校段階（学歴）に影響が見られる

- ・子どもが進学を希望する学校段階は、所得階層や家族形態により割合に差が生じており、保護者が期待する子どもの学校段階とほぼ一致している。

(子どもが希望する進学先：①大学②高校)

I層①44.8%②28.1%、II層①25.5%②41.1%、A層①35.4%②34.5%、B層①43.0%②28.9% (中2)

(保護者が期待する進学先：①大学②高校)

I層①46.3%②26.4%、II層①23.1%②47.7%、A層①34.5%②34.9%、B層①43.9%②28.3% (中2)

- ・全体では、保護者の学歴と子どもに対する期待度に関するクロス集計において、保護者の学歴が大学卒業以上の場合は子どもに対しても大学以上の進学を期待し、保護者の学歴が高校卒業であれば子どもに対しても高校までを期待する傾向が見られる。

(子どもの大卒以上を期待) 母が大卒 82.7%、母が高卒 31.4% (中2)

(子どもの大卒以上を期待) 父が大卒 74.4%、父が高卒 34.4% (中2)

●所得階層や家族形態により子どもの学習機会や理解度に差が見られる

- ・学校での勉強内容について、「勉強がわかる」と回答した子どもの割合は、全体で76%であり、II層A層では、割合に差が生じている。

(勉強がわかる) I層 77.9%、II層 66.2%、A層 69.5%、B層 77.8% (中2)

- ・全体では、家計の状況と子どもの学力に関するクロス集計について、「黒字で余裕がある世帯の子ども」は、「赤字で借金をして生活している世帯の子ども」とくらべ、「勉強がわかる」割合が高い傾向が見られる。

(勉強がわかる) 黒字家計 80.7%、赤字家計 65.5% (中2)

- ・「塾に通わせている」割合は、全体で44.5%であり、II層A層では、割合に差が生じている。また、塾に通わせていない理由として「月謝等の負担が難しい」との割合は、全体では21.8%であり、II層A層では割合に差が生じている。

(塾に通わせている) I層 47.3%、II層 29.9%、A層 37.7%、B層 46.5% (中2)

(月謝等の負担が難しい) I層 19.4%、II層 40.9%、A層 33.0%、B層 19.0% (中2)

- ・全体では、塾などの学校外教育と子どもの学力に関するクロス集計において、塾に通わせている子どもは、「勉強がわかる」割合が高い傾向が見られる。

(勉強がわかる) 塾に通わせている 79.8%、塾に通わせていない 72.7% (中2)

(4) 社会環境

●所得階層や家族形態により必要とする経済支援等の割合に差が見られる

- ・子どもを育てていくうえで必要と思う支援について、Ⅱ層A層では、割合に差が生じている。

(保育料や学校費用の軽減) I層 57.6%、Ⅱ層 45.6%、A層 40.8%、B層 59.3% (小5)

(奨学金充実) I層 31.8%、Ⅱ層 38.0%、A層 35.8%、B層 31.6% (中2)

(住宅支援) I層 12.9%、Ⅱ層 24.9%、A層 25.4%、B層 11.8% (小5)

(就学援助拡充) I層 20.9%、Ⅱ層 36.2%、A層 34.9%、B層 19.8% (中2)

- ・「無料の学習塾」について、「参加させたい」の割合は、全体で67.3%であり、Ⅱ層では、割合に差が生じている。

(無料学習塾に参加させたい) I層 67.0%、Ⅱ層 73.7%、A層 67.1%、B層 67.9% (中2)

- ・「子ども食堂」について、全体のうち「参加させたい」の割合が29.9%、「わからない」の割合が49%であり、Ⅱ層A層では、「参加させたい」の割合に差が生じている。

(子ども食堂に参加させたい) I層 28.8%、Ⅱ層 41.2%、A層 38.2%、B層 28.3% (中2)

●所得階層や家族形態により社会的孤立(社会関係の希薄化)に差が生じている

- ・「自分だけでは解決することが難しい大きな悩みを抱えているか」について、「抱えている」の割合は、全体で13.3%であり、Ⅱ層A層では、割合に差が生じている。

(悩み抱えている) I層 12.2%、Ⅱ層 24.5%、A層 18.2%、B層 12.1% (中2)

- ・「悩みや子育ての相談などをできる人がいるか」について、「いる」の割合は、全体で87.1%であり、Ⅱ層A層では、割合に差が生じている。

(相談相手がいる) I層 88.7%、Ⅱ層 81.2%、A層 84.0%、B層 88.4% (中2)

- ・「地域行事に参加している」について、「参加している」の割合は、全体で70.3%であり、Ⅱ層A層では、割合に差が生じている。

(地域行事に参加している) I層 71.7%、Ⅱ層 64.1%、A層 60.3%、B層 73.2% (中2)

(5) 心身への影響

●所得階層や家族形態により保護者の気持ちの不安定さや体調に差が見られる

- ・「日々の生活で不安やイライラを感じる」について「あてはまる」の割合は、全体で54.3%であり、Ⅱ層A層では、割合に差が生じている。

(イライラを感じる) I層 52.6%、Ⅱ層 70.1%、A層 61.9%、B層 52.9% (中2)

- ・「将来に希望をもっている」について、「あてはまる」の割合は全体で59.4%であり、Ⅱ層A層では、割合に差が生じている。

(希望をもっている) I層 62.1%、Ⅱ層 46.5%、A層 50.4%、B層 61.6% (中2)

- ・「幸せだと思う」について、「あてはまる」の割合は、全体で88.1%であり、II層A層では、割合に差が生じている。

(幸せだと思う) I層 90.0%、II層 76.7%、A層 80.2%、B層 89.6% (小5)

- ・「現在の健康状況」について、「健康である」の割合は全体で75%であるが、II層A層では、「病気がある、体調が悪い」と回答した割合に差が生じている。

(病気がある、体調が悪い) I層 18.7%、II層 34.4%、A層 27.8%、B層 19.2% (小5)

●所得階層や家族形態により子どもの向上心やチャレンジ精神、自己肯定感に差が見られる

- ・「子どもが勉強やスポーツ等がんばりたいと思う」について、「思う」の割合は、全体で90.7%であり、II層A層では、割合に差が生じている

(がんばりたいと思う) I層 91.6%、II層 85.2%、A層 87.7%、B層 91.4% (小5)

- ・「子どもが何かに挑戦したいと思う」について、「思う」の割合は、全体で79.7%であり、II層A層では、割合に差が生じている

(何かに挑戦したいと思う) I層 80.4%、II層 76.3%、A層 73.5%、B層 81.2% (中2)

- ・「自分には良いところがあると思うか(自己肯定感)」について、「思う」の割合は、全体で71.9%であり、II層A層では、割合に差が生じている。

(自分に良いところがあると思う) I層 72.8%、II層 65.4%、A層 67.5%、B層 72.8% (小5)